

ロールプレイについて（概要）

1. ロールプレイとは

- 現実にかかる場面を想定して、複数の人がそれぞれ役を演じ、疑似体験を通じてある事柄が実際に起こったときに適切に対応できるようにする学習方法の一つである。
- 学習者は、役割を演じなければならないが、演じ方はたいてい演者の自由である。
- 対人関係や態度・行動を通して行われる学習に用いられる。

2. ロールプレイのメリット

- 意志決定過程にみられるような物事のプロセスについて学ぶ可能性が高くなる。

3. ロールプレイの方法

1) 事前準備

- シナリオ：準備の段階でシナリオを作成するか、役割だけを決めて自由に行うか、目的によって決定する。
- 時間：決まっているわけではない
- オリエンテーション：実施する前に学習者にその目的を十分に説明する。

2) 実施

- 実施中にロールプレイをビデオに録画しておけば、後で見直すことができる。

3) フィードバック

- ロールプレイ終了後、気づきや学びを話し合うことで、学習を深め、広げることが大切

4. ロールプレイ（ロールプレイング）の目的

日常生活の中で、人は必ず様々な役割を背負って暮らしていることを考えますと、人生はまさにドラマと言えます。その中で、常に同じような役割ばかりをこなしていると、新たな人間関係を作り出すことは大変難しくなります。

ロールプレイとは、参加者が自由な雰囲気の中で、あるテーマについて即興的に役割を演じ、

協同して、役割行動の変容を図るもので、日常生活におけるそれぞれの役割を見直し、新しい状況に
応じられるようになることを目的としています。

- (1) 日常生活における自分の役割を見直し、日常生活での課題を解決する手がかりを得ます。
- (2) 参加者全員が、感情の解放をします。
- (3) 新しい、突発的な状況に応ずることができます。

したがって、ロールプレイは日常生活のリハーサルとも言えるでしょう。参加者はうまく演ずる必要はありません。大切なのは、いかに自分なりに自発性を発揮して演ずるかです。

自発性が回復されれば、ロールプレイでの新鮮な役割体験は、新しい役割を日常生活に取り入れる
原動力となります。

自発性とは、新しい状況においても、周囲と自分自身にとって、より適切な、望ましい対応ができる
ということです。一般に、人は、新しい状況に対しては、他人の意見や自分の既有的体験をよりど
ころとして対応してしまいがちです。自発性は、そのような自分の外側から規制してしまうのではな
く、自然に自分の中から自分を動かしていくことです。

自発性は、まず役割をとること（役割取得）から、自発的に個性的に演ずること（役割演技）、
さらに、新しい役割を創造すること（役割創造）へと段階的に高まっていきます。

5. ロールプレイを行う上での注意

- 1) ロールプレイを理解しているファシリテーターをグループごとに配置すること
- 2) 事前準備（オリエンテーション）：参加者が主体的に関われるように情報や知識の整理
- 3) 役割別の準備：各役割ごとに自分たちの役作りを行い、場面設定を話し合う
- 4) 役割演技・討議：役になりきって演ずる。時間内で場面を変えて複数回実施しても良い
- 5) 誰か一人が時間を独占しないこと
- 6) 振り返り（フィードバック）：必ず自分の役やほかの役について感じたこと、考えたことを
振り返る時間を取り、ロールプレイの後、他の人へ感情・しこりが残らないよう配慮する。